

第3回航空イノベーション推進官民連絡会

顔認証を活用したおもてなしによる地域活性化 南紀白浜 IoTおもてなしサービス実証の概要

2021年4月12日

NEC クロスインダストリー事業開発本部

Agenda

- おもてなしの取り組み

 - 南紀白浜 IoTおもてなしサービス実証の概要

- 持続可能な観光地域づくりへ

おもてなしの取り組み

顔認証を活用したおもてなしによる地域活性化

南紀白浜
IoTおもてなしサービス実証の概要

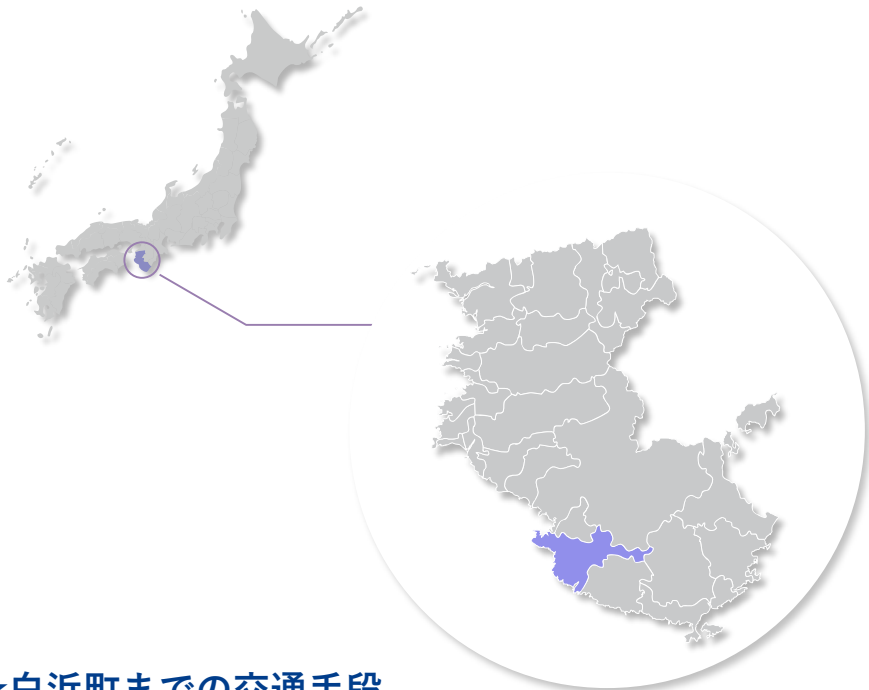


和歌山県 白浜町について

和歌山県 白浜町

人口21,437人

(平成31年4月末)



★白浜町までの交通手段

- ・南紀白浜空港：羽田から75分 [3便/日]
- ・JR 白浜駅：大阪から約2時間半
- ・阪和道 南紀白浜IC 大阪から約2時間

■主産業

- ・観光 ・農業 ・漁業
- ・ビジネスオフィスが整備され、首都圏IT企業が進出

■観光資源

- ・白良浜（ワイキキビーチと姉妹協定）
- ・白浜温泉（有馬温泉、道後温泉と並ぶ日本三古湯）
- ・円月島、千畳敷、三段壁（南紀熊野ジオパーク）
- ・アドベンチャーワールド（日本最多6頭のパンダ飼育）

■周辺の主な観光資源

- ・熊野古道（世界文化遺産）
- ・高野山（世界文化遺産）
- ・梅システム（世界農業遺産）

■提携大学

- ・近畿大学 ・桃山学院大学

■大学

- ・京都大学 瀬戸臨海実験所水族館
- ・近畿大学水産研究所 白浜実験場

<観光客数の推移> → 横ばい

359.6万人
(平成27年)

346.9万人
(平成28年)

346.5万人
(平成29年)

和歌山県観光客動態調査報告書（和歌山県商工観光労働部観光局）より



熊野古道



白浜温泉



アドベンチャーワールド



白良浜

実証開始のきっかけ

空港民営化を契機に、「地域活性化」をテーマに共創していくことに合意

外部環境

2018年5月：経営共創基盤（IGPI）等が空港の運営権を取得（＝空港民営化）
「南紀白浜空港マスタープラン*」に基づき、「利用者満足度の向上」や「IoTの聖地化」の実現による、「空港型地方創生」を目指す

南紀白浜エアポート

地域全体の活性化

IoTの聖地化

NEC

民間主導のエリアマネジメント**の事業性検証

先進技術（顔認証）の有効性検証

2018年9月、空港／NECが中心となって、観光客の伸び悩みに危機感を感じている地域の商業施設を巻き込んだ、「地域活性化」を目指すことで合意（IoTおもてなし実証構想の開始）

目的

- エリアマネジメントの「事業性」
- 顔認証技術および関連技術の「有効性」の検証

*南紀白浜空港マスタープラン
https://igpi.co.jp/wordpress/wp-content/uploads/2018/05/20180529_IGPI_PR_Nanki_MasterPlan.pdf

**国土交通省「エリアマネジメント推進マニュアル」
http://www.mlit.go.jp/totikensangyo/totikensangyo_tk2_000068.html

IoTおもてなしサービス実証の概要



IoTおもてなしサービス実証 最新トピック

2020年9月よりJAL様と協業スタート。南紀白浜エリアに加え、羽田空港にも利用シーンを広げ、新たな旅行体験の実現に向けた実証を開始。

観光復興

笑顔写真撮影サイネージ

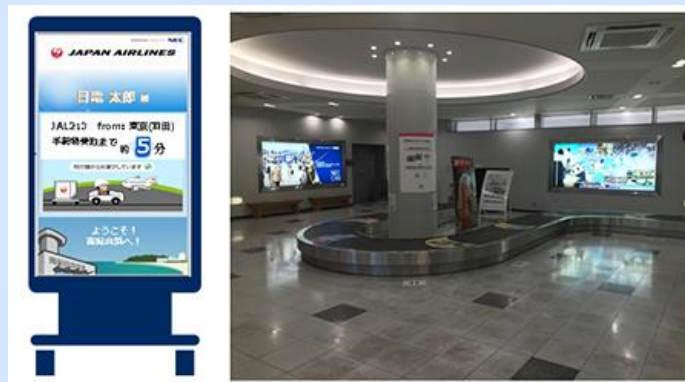


笑顔測定を活用した
写真が撮影できる
サイネージ



混雑回避

手荷物待ち時間サイネージ



顔認証を活用し、お預け手荷物の
待ち時間を表示するサイネージ

キャッシュレス/タッチレス

羽田空港売店の顔決済



羽田空港の南紀白浜便
搭乗ゲート付近のJALUX売店で
顔決済の実証を実施。
キャッシュレス・手ぶらで
お買い物が可能。

地域課題

生体情報を使った共通のIDを用いて異なる場所やサービスを繋ぎ、地域一体となって安全・安心で便利な観光体験を実現

地域課題

- ・観光産業における繁忙期と閑散期の平準化
- ・観光客が安全・安心を実感できる感染症対策
- ・町全体での集客施策の効率的な展開

実証目的

- ・NECの先端技術の活用による安全・安心の提供
- ・クーポン電子化と顔認証を活用した周遊・消費拡大
- ・地域事業者を跨いだ情報活用による行動変容・集客手段の拡充

NECが南紀白浜地域に貢献できる領域について

安全・安心な地域として、選ばれる観光地となり、地域観光産業の復興を実現するため、事業者の課題を聞き、弊社の強みを活かして貢献できる対策を検討・提案

地域・事業者の 主な課題

1. 感染症対策
(安心安全な旅)
2. 町全体での集客施策
の効率的な展開
3. 個人毎への
最適なアプローチ

本実証の狙い

生体情報を使った共通のIDを用いて、異なる場所やサービスを繋ぐだけでなく、地域一体となって顧客へ貫いた安心安全で便利な観光体験を実現



サービスモデル 完成への取組

先端技術の社会実装
(顔認証関連技術・
混雑度検知技術等)

地域横断でデータを
活用する有効性の確認

ビジネスモデルや
カスタマージャーニー
の仮説立案・検証

IoTおもてなしサービス実証 最新トピック

2021年3月からは混雑状況をリアルタイムに可視化することで、混雑を回避するなどの安全対策をとることができる実証を開始。

混雑回避

混雑状況可視化サービス

2021年3月より、施設内の混雑度状況を表示する「混雑度表示デジタルサイネージ」を南紀白浜空港、アドベンチャーワールド、ホテルシーモアの3施設に設置。

また「おもてなしIoTマップ」に混雑度を可視化する機能を追加し、スマートフォンでも手軽に各施設の混雑度を確認可能に（2021年4月中旬予定）。

※和歌山県 先駆的産業技術研究開発支援事業 採択事業
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/063100/senku.html>



持続可能な観光地域づくりへ

持続可能な観光地域づくりへ

持続可能な観光地域づくりのために、地域社会と共存した安全・安心の提供とおもてなしを実現できる地域に発展していくことが重要

地域と共創した
観光地域づくり

デジタル
トランス
フォーメーション

DXを活用し持続可能な
観光地域づくりの
仕組み構築を目指す

魅力ある
観光コンテンツ

観光客・従業員・地域住民の
安全・安心の確保

事例：宮古島市 観光客も住民も利用できるループバス実証運行

- ・ 観光客も住民もタッチレスで乗車できるループバスの実証運行を開始
- ・ 住民は実証期間中、顔認証で定額乗り放題



観光客



住民



バス事業者

課題

混雑ピーク時に、タクシーをはじめとする公共交通が不足し思うように移動ができなくなる

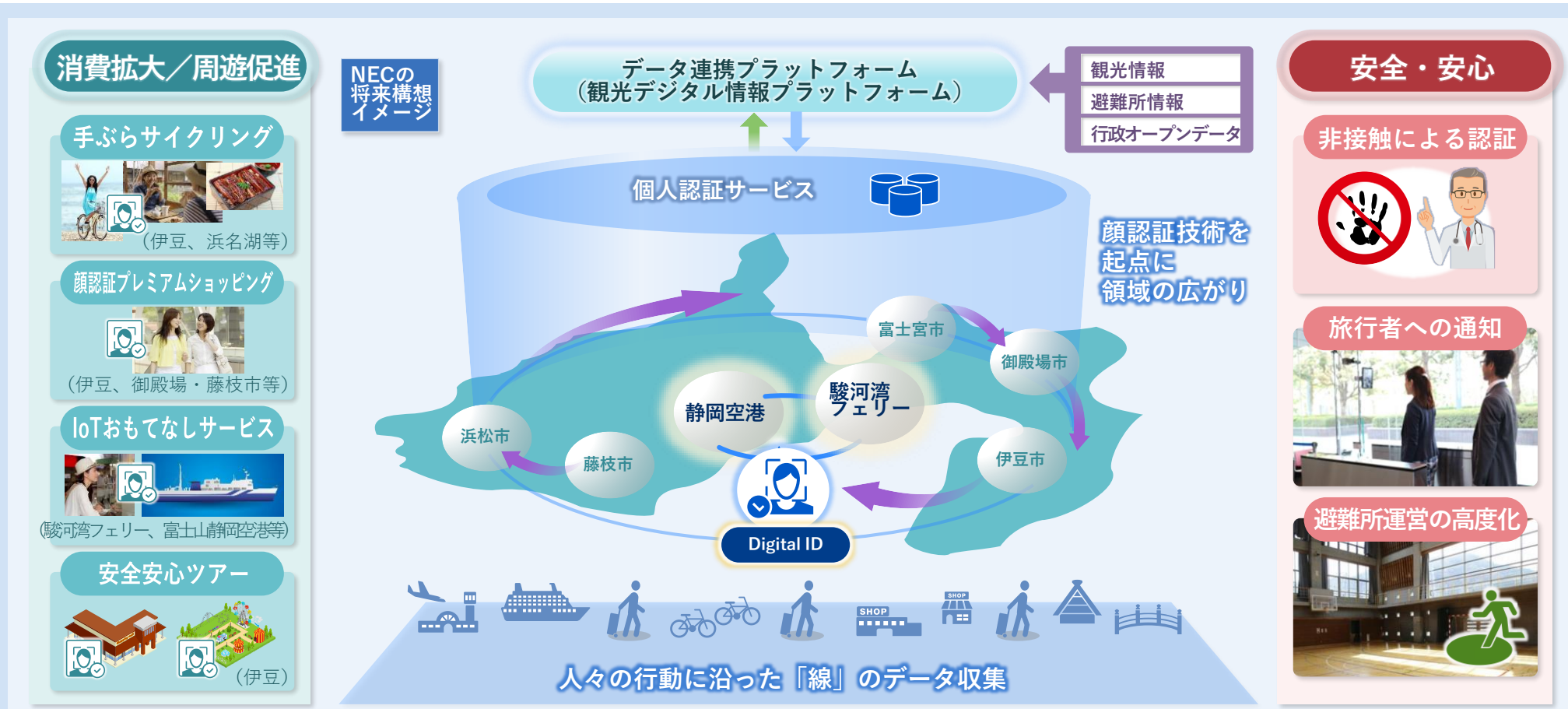
乗車率を上げて収益化を図りたい

解決

観光客も住民も使える
便利なループバスの運行

データ利活用による安全・安心と観光促進の両立 静岡県

観光における消費拡大／周遊促進を目指しデータ連携プラットフォームを構築中



持続可能な観光地域づくりに向けて



地域住民の生活向上



滞在体験の向上



外部接続性の向上

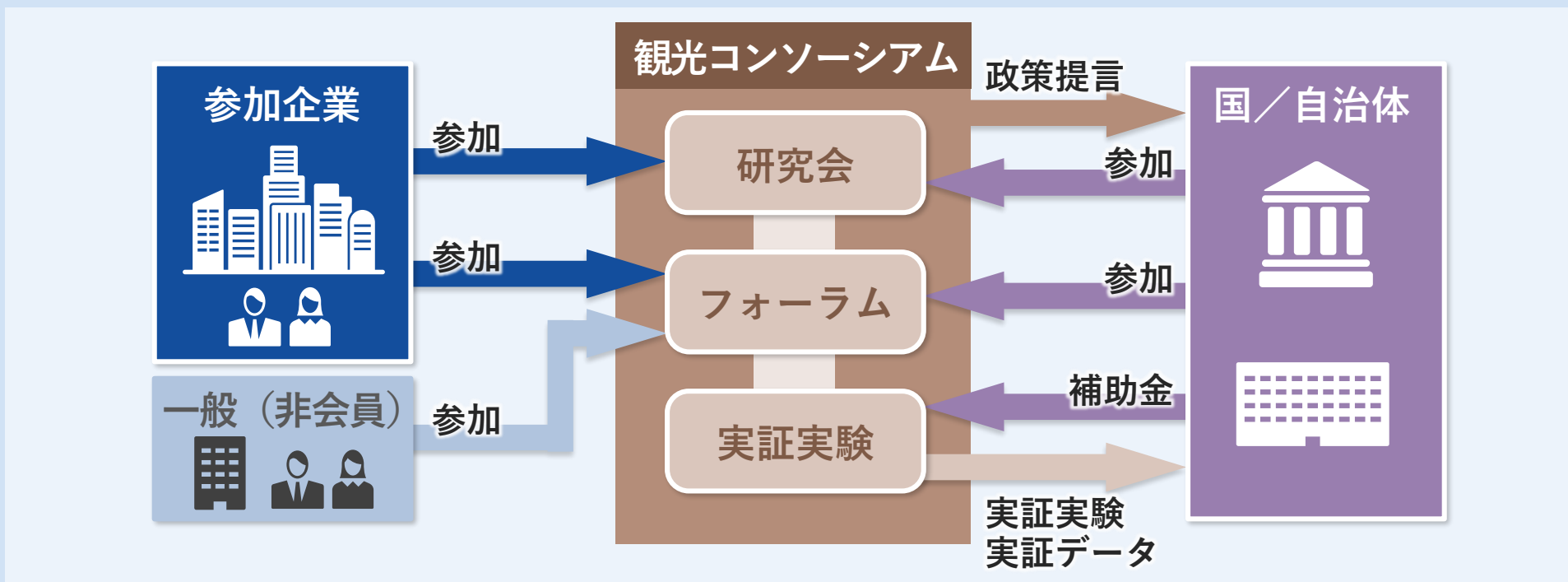
観光を通じて“そこにしかない経済圏”を構築

一般社団法人 日本地域国際化推進機構の立上げ

世界に通用する文化観光都市の実現を目指し、持続可能な観光産業に貢献

※https://jpn.nec.com/press/202101/20210115_01.html

- 地域の課題解決を支援
- 企業のサービス/プロダクトのプロトタイピングを支援
- 参加自治体・企業の共創を促し、地域活性化を担う人材を育成



\Orchestrating a brighter world

NECは、安全・安心・公平・効率という社会価値を創造し、
誰もが人間性を十分に発揮できる持続可能な社会の実現を目指します。

\Orchestrating a brighter world

NEC